

○5月全校集会講話

今年も本校教育目標を「北茂安中学校生徒としての誇りを持ち、自信と意欲をもってたくましく生きる生徒の育成」と設定し、目標達成のための方策の一つとして、北茂安地区や母校を是非好きになってもらいたいという願いを込め、全校集会時に北茂安の歴史や学校の歴史、校歌の由来等について話をしています。

5月の全校集会は、5月15日（月）の朝の時間帯を使って、校歌の文言の意味と作詞者の話をしました。



本校の校歌は、昭和31年、第5代校長古賀文男先生の頃、制定されました。作詞者は古賀残星氏で、作曲者は陶山 聡氏です。古賀残星氏は、久保田町史や思斉館中学校のHPによると明治36年に旧久保田村に生まれ、佐賀師範学校（現在の佐賀大学教育学部）や東京高等師範学校（現在の筑波大学）を卒業し、新潟県立旧制村松中学校（現在の村松高校）の教師となります。その後、教職を辞め、柔道の普及に尽力されます。柔道家であり文学者でもあった古賀氏は、郷里久保田に対する思いが強く、思斉小学校の校歌も残星氏が作詞しています。北茂安も柔道が盛んだったので、その関係で北中の校歌も作詞されているのではと推測しています。

上の写真は、全校集会の時に使ったスライドの一部です。体育館にある校歌の額（平成元年度卒業生寄贈：第43回生）、校歌が制定された頃の生徒（昭和32年度の卒業生）、当時の古賀文男校長、古賀残星氏、残星氏がかつて勤めた旧制村松中学校（現村松高校）の正門（築100年以上）です。

また、校歌の歌詞で、「いさおし」＝勲功・手柄、「神さびて」＝古びて貴くみえる、「金の原」＝中学校付近の地名、「久遠の理想」＝永遠の昔からの理想という意味があるようです。

①



古賀残星氏

① 作詞：古賀残星(本名古賀又作)

- 明治36年(1903年)～昭和43年 享年65歳
- 出身 現在の佐賀市久保田町
- 経歴 思斉小学校→佐賀師範学校
- 東京高等師範学校(現 筑波大学)
- 新潟県立旧制村松中学校(現 村松高等学校)
- 柔道の啓発活動

思斉小校歌作詞



村松高校正門

次回は、校歌作曲者 陶山 聡（すやま さとる）氏について紹介します。